

行政調査報告書「未来型施設整備研究特別委員会」

令和3年11月10日～12日

■山形県長井市 『新庁舎の建設について』

長井市は鉄道駅と一体となった全国初の庁舎である。旧庁舎の課題に老朽化、6か所に及ぶ分散化、防災機能・耐震性能の不足があり、浸水想定区域内ではない安全性、まちなかにある利便性、費用軽減の実現性から移転場所が決定された。市の玄関口である長井駅と一体化して整備することで、市役所への来訪者だけでなく、鉄道を利用する人々と交流が生まれる「まちの顔」として魅力ある庁舎にしている。

現在、隣接するグンゼ工場跡地に子育て支援施設や図書館などの複合施設の建設も進められており、新庁舎建設にとどまらずエリア全体の開発を一気に進められていることは、施設が分散している本市においての集約化といった課題もあり、今後の本市の新庁舎建設への取り組みに参考とすべきと考える。



庁舎3階からの市域を望む様子

■東京都西東京市 『指定管理者による公園の一括管理について』

西東京市の公園は小規模公園や緑地が多く分散している状況である。公園の指定管理者制度導入は比較的規模の大きい公園単体のことが多いが、一定の区域、西東京いこいの森公園を中心に54公園を一括管理している。これは市全体の6分の1の区域に及ぶ。大きな特徴として、市民協働のノウハウを持つ人員を配置し、市民ボランティア等との協働による公園管理を積極的に推進することを明確に位置付けている。地元農家と連携したマルシェの開催や花壇づくりなど充実を図り、自主事業では収益の高い事業も手がけ、来園者の増加、アンケートの満足度も高く大きな成果をあげている。企画力、営業力など民間ならではの強みを発揮している。



管理拠点の西東京いこいの森公園にて

市民協働推進を最重要目的にしたことで、単なる業務委託の延長ではなく、民間能力を最大限に発揮できような制度となるように導入段階で工夫していることは参考にした。

■ところざわサクラタウン（埼玉県所沢市） 『公民連携による施設整備について』

所沢市は東京近郊のベッドタウン、中心部の所沢地区には複数の高層マンションが連なっている。所沢市と KADOKAWA の共同プロジェクト、COOL JAPAN FOREST 構想の協定を 2017 年に締結。文化と自然が共生した、誰もが「住んでみたい」「訪れてみたい」地域づくりを進める構想である。ところざわサクラタウンを中心に「みどり、文化、産業が調和したまち」を目指している。幹線道路や鉄道路線を通じ、所沢カルチャーパーク、狭山湖、市内拠点を始め、市外の観光拠点等と連動性を高め、国内外からところざわサクラタウンを訪れる人々が市域全体に広がり、さらに周辺自治体等の地域全体に広がる人流を創出している。

洗練された感性が随所にあふれ、従来にとらわれず変化を恐れず挑戦し続ける心を強く感じ、本市も同様に挑戦、変化を恐れない政策に取り組めるように様々な可能性を見出していきたい。



サクラタウン内の角川武蔵野ミュージアムにて